

# ヴェーダ

V E D A (ヴェーダとは  
サンスクリット語で  
“癒し”を意味します。)

地域の皆さん向けの広報誌

基本理念

共に歩む



基本方針

- 患者さんの人権と権利、そして思いを尊重します
- 急性期医療、がん医療、予防医療を推進します
- 救急医療の充実に努めます
- 地域の医療・介護・保健機関とつながる医療を行います
- 職員の働きがいのある職場を目指します



ANNUAL MUNICIPAL  
OFFICERS AWARD 2019

## 小松市職員アニュアルアワード2019

スキルアップ部門

本館8病棟

セル看護提供方式®への変更による看護の充実・満足度向上・業務時間削減

スキルアップ部門  
個人賞

薬剤科  
桂 英之

「お薬服用フォローアップ」推進事業  
およびアプリを活用した患者との連携  
による先進的取り組み

### スキルアップ部門

本館8病棟が、今年度小松市職員アニュアル・アワード2019 スキルアップ部門賞「セル看護提供方式®への変更による、看護の充実・満足度向上・業務時間削減」を受賞しました。

小松市民病院看護部では、入院されている患者さん・ご家族の思いを大切にしたいと考え、昨年4月より「セル看護提供方式®」を導入し、常に患者さんの傍で看護を実践する方法で看護に取り組んでいます。「セル看護提供方式®」の目的は、①看護師がベッドサイドに常にいることで、患者さんの状態変化を早期に察知することができる ②コミュニケーションの時間が増え、患者さんの精神状況が安定し身体の抑制の軽減に繋がる ③患者さん・家族と顔の見える関係ができ、思いに沿った在宅療養支援や意思決定支援に繋げられる ④患者さん・家族の満足度が向上する ⑤ベッドサイドで看護を実践することで、業務の時間短縮になり時間外勤務が減少するとしました。これらの取り組みにより、ご家族からは「病室の中でパソコン入力されていたが、見守ってくれていると思った、家族として安心です。」という意見を頂きました。患者家族の満足度調査では、「看護師の患者の声を聴く姿勢」「看護師の説明」「サービス体制全般」「整理・整頓」の項目で前年度より評価が高く、そして看護師の時間外勤務時間も、前年度より平均6時間/人から、4時間30分/人に減少しています。

この受賞を受けて私たち本館8病棟では、今後も患者さん家族の思いを大切に、看護を実践していきたいと考えています。

(本館8病棟 看護師長 下出 弘美)



### スキルアップ部門 個人賞

昨年、当院で抗がん剤治療中の患者さんのために2つの取り組みを始めたことが認められ、スキルアップ部門個人賞を受賞することができました。

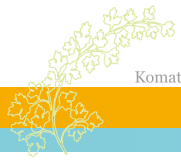
1つ目は、病院外の薬局薬剤師の先生方との連携です。病院外の薬局薬剤師の先生方が患者さんに電話で定期的に連絡を行い、そこで得た情報を私と主治医が共有します。これにより、患者さんは不安や気になる症状があれば、電話でまず薬剤師に相談ができます。更にそれらの情報を病院の薬剤師と主治医が共有し相談することによって、患者さんのためにより一層対策することが可能になります。

2つ目は、スマートフォンを用いたアプリによる取り組みです。当院は全国で初めて2つの抗がん剤に対するアプリを導入しました。アプリのメリットとして、患者さんは自宅で過ごしながらかになる症状をアプリに入力すると、私やがん治療を専門とする看護師さんがその情報をいつでも把握ができ、更に回答することもできます。実際に、アプリのおかげで重篤な副作用を早期に発見して命を救うこともできました。

患者さんが安心・安全に自宅で過ごすことができ、共に治療ができるように、これからも患者さんに寄り添いながら励みたいと思います。

(薬剤科 桂 英之)





# 公立病院初！ 顔認証再来受付システム導入！

## 診察受付、採血・採尿受付、会計自動精算機 診察券いらずでスムーズに！

2020年1月14日から、当院では再来受付機に最新の顔認証技術を用いたシステムを導入しました。受付機に顔認証を導入するのは珍しく、公立病院では全国初導入です。

システムを利用するには、総合受付で顔写真を撮影・登録する必要があります。登録後は、受付機の前に立ち、画面にタッチするとカメラが作動し、本人確認を行います。確認後、診療科を選択すると、受付票が発行され、診察券が不要となります。採血・採尿受付機や会計の自動精算機も受付票右上に印字してあるバーコードを利用することで、診察券は不要となります。これまでと同様に、診察券での受付も可能です。



[5 新患受付]で顔写真を登録



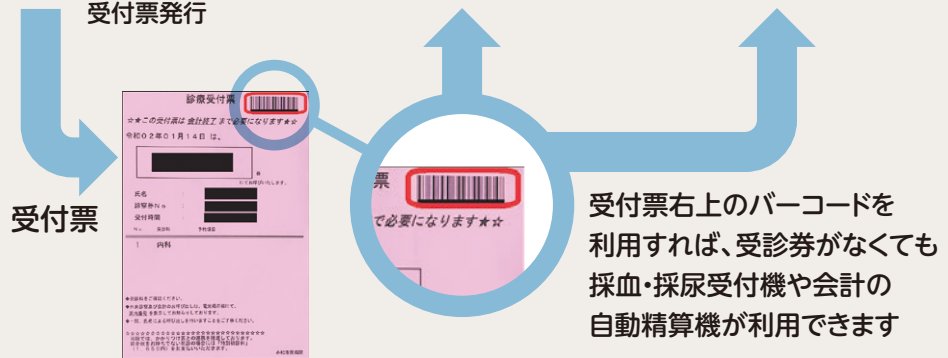
再来受付機で本人確認  
受付票発行



採血・採尿受付機



自動精算機



(注)これまで通りに、診察券での受付もできます。



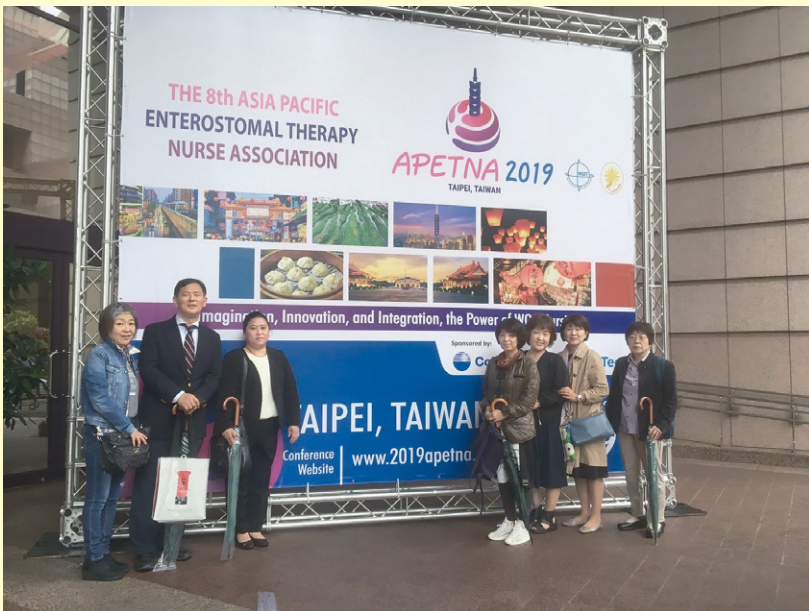
これまで診察券を忘れた場合、総合案内で手続きが必要でしたが、こういった手間が省けます。また、顔写真は自動的に電子カルテにも登録され、外来診察や救急、手術、検査の際に患者間違いを防げるメリットもあります。

患者さんからは、「顔写真の登録は簡単、間違いがなくなり、便利になってよい」「久しぶりに市民病院にきて、診察券がどこにあるかわからなかった。こんな時でも顔登録しておけば安心してスムーズに受診できるのでよい」と好評です。是非、ご利用ください。



topics  
トピックス

## APETNA (アジア太平洋ストーマ療法看護師協会学術集会) に参加



2019年11月22～24日台湾で行われた第8回：APETNA (Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association) に参加し、発表してきました。国際学会ということで、開会式には台湾の伝統舞踊が披露されるなど華やかな学会でした。発表した内容は当院ロビーに掲示してありますが、過去2年間のおむつ使用患者における真菌発生要因について研究したものです。この研究には、当院の皮膚科新石先生、金沢大学教授 須釜淳子先生、太田看護部長をはじめ看護部のご協力のもとまとめることができた研究です。また当院はさらにおむつ患者における真菌発生の要因について調査しております。この研究や現在行っている研究の成果をもとに今後の看護に活かして行きたいです。

文責：西本 由美



## しんたに医院

小松市園町二67-1 ☎23-2255



院長 新谷 博元

当院は南加賀医療圏における数少ない呼吸器、アレルギーを専門とする外来中心の医療機関であり、スタッフ一同、優しく温かくきめ細やかな診療・生活指導に心掛けています。

3週間以上長びく咳で悩む方の診療、各種アレルギー疾患(喘息、アレルギー性鼻炎、花粉症など)の診断と治療(皮膚疾患は除く)、睡眠時無呼吸症候群の診断と治療、ニコチン代替療法による禁煙指導を行っています。また高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病の診察、予防接種(インフルエンザ、肺炎球菌、各種予防接種)、特定・長寿健康診査も実施しています。

私事ですが、H4年に小松市民病院に赴任し呼吸器内科医長として15年間地域医療に従事。その後H19年秋に当院開院し本年で13年目を迎えました。お陰様で、咳の治療を希望される患者様が多数ご来院くださり、心より感謝しております。

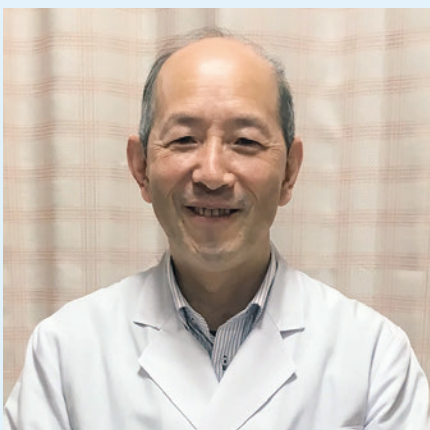
咳治療に関してですが、3週間以内の急性咳の多くは感冒(かぜ)を含む気道の感染症であり、先ずはかかりつけ医に受診加療の上、治らない場合に当院等の専門医療機関に受診頂けますと幸いです。またコントロール不良の糖尿病、心臓病、膠原病、悪性疾患等の基礎疾患をお持ちの方で長引く咳の場合には、診断治療に際して精密医療機器や入院施設を持つ高次専門医療機関での精査管理が望ましいと思われまので、主治医にご相談ください。

繁忙な診療に伴い至らない点が多々あり、患者様には不都合やご迷惑をおかけすることがございますが、今後とも患者様に寄り添い満足して頂ける医療を目指して参りますので、宜しく願い申し上げます。



## 小松みなみ診療所

小松市下栗津町み1 ☎43-0375



院長 帯刀 裕之

当診療所は1985年4月22日に開業し、今年の4月22日で丸35年になる内科、小児科の、地域のかかりつけ診療所です。

僕は縁があって25年ここで仕事しています。僕がここで仕事を続けているのは、白山が見える、この昭和な診療所が好きだからです。

2020年の抱負として、「“ALL HAPPY” (地域住民みんなが幸せになる) 健康、長寿、笑顔、その人らしい人生を支えます」を掲げました。そのため、癌、動脈硬化、感染症、認知症、この4つの予防、早期発見に頑張ろうと考えています。

趣味は、昔は、軟式テニスをしていました。もう一つの趣味は、白山診療班です。20歳頃から白山に登って診療活動していました。白山の室堂の診療所で9泊10日、夏山50日を5つの班でまわしていたことが、大変良い経験ができたと思っています。





メディカルレポート

## 腎臓内科

腎臓内科医長 谷 悠紀子

## 当科は腎臓病とリウマチ・膠原病を中心に診療しています。

腎臓病は、現在もまだ末期腎不全となり、透析が必要となる患者が増加しております。できるだけ末期腎不全へ至らないよう、少しでも透析治療を遅らせるよう診療を行っております。

## 【腎臓病について】

腎臓の病気の原因は、大きく分けて2種類あります。

1つは腎炎と呼ばれる、免疫の攻撃で腎臓が炎症を起こして、壊れてしまう病気です。腎臓だけのものから、全身の病気が腎臓にも影響を及ぼしている場合もあります。

もう1つは生活習慣病が原因で、腎臓が壊れてしまう病気です。糖尿病が最も多い原因となっておりますが、高血圧や肥満でも腎臓がダメージを受けます。

今までの経過や必要があれば腎生検(腎臓に針を刺して腎臓の一部を取ってくる検査)などから、できるだけ腎臓が悪くなっている原因を調べ、原因に合わせた治療を考えていきます。

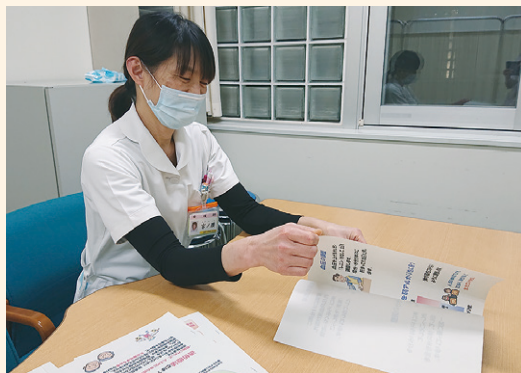
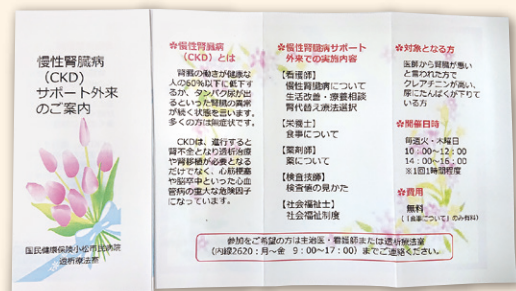
## 【CKDサポート外来について】

一度壊れてしまった腎臓の尿を作るところ(糸球体)は再生できないため、薬などで腎臓病を完治させることは困難なことが多いです。そのため、いかに残っている腎臓の負担を軽くするかという“腎保護”も大切になります。

“腎保護”のためには血圧の管理、食事の管理、生活習慣の改善などが必要となります。これらについて患者さんに知って実践していただくため、当院ではCKD(慢性腎臓病)サポート外来を行っています。透析室看護師、栄養士、薬剤師、検査技師などが、腎臓病について必要な知識の説明を行ったり、相談に乗ったりしています。年に2回、腎臓病教室でも同じような内容の話を行っていますが、CKDサポート外来は、ほぼ個別にお話しすることで自分のペースで習得しやすく、また相談もしやすくなっています。

腎臓病は薬を飲めば治る、または完治するといったことが難しい疾患ですが、治療をすれば何年か先の結果が変わってくるものです。

腎臓病を健診やかかりつけ医で指摘された場合は、当科受診とCKDサポート外来の受講をおすすめします。患者さんが慢性腎臓病と向き合って療養していけるよう、チームでサポートしていきたいと考えています。



指導風景



指導パンフレット



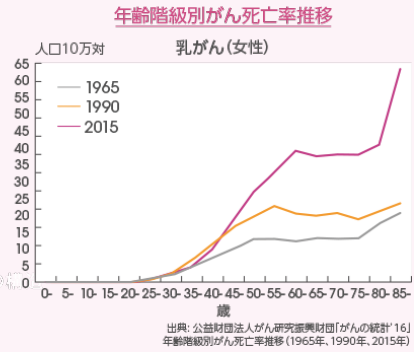
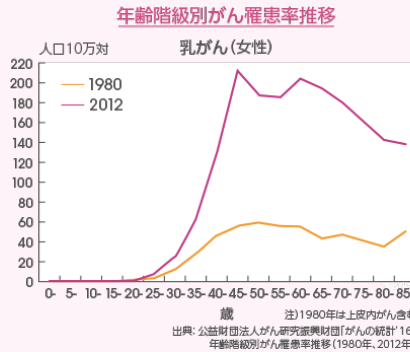
メディカルレポート

## 乳腺外科

乳腺外科医長 佐藤 礼子

### 乳がん検診について

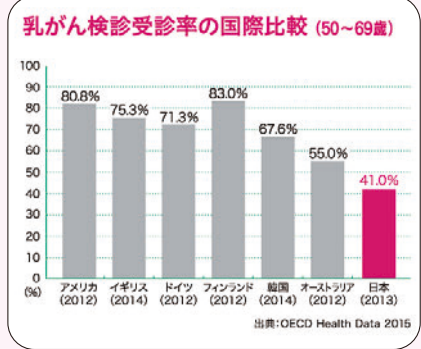
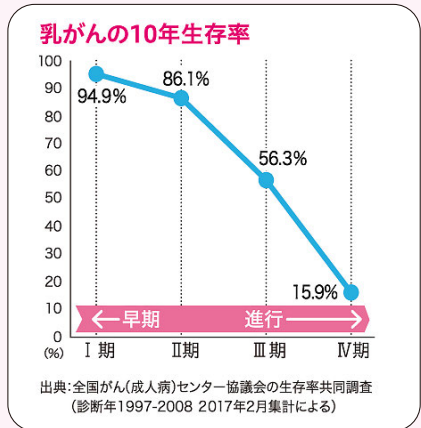
日本では乳がんにかかる人の数が増加しており、日本人女性の乳がん罹患率は11人に1人とされています。30歳代から急増して45～49歳がピークとなり、他のがんと比べて若い方に多いことが特徴ですが、高齢化に伴い高齢者の乳がんも増加していますので注意が必要です。



乳がんは早期発見により適切な治療が行われれば、良好な経過が期待できますが、早期の乳がんでは自覚症状はほとんどありません。乳がん検診を受けることによって、症状がでる前の早期乳がんを見つけられる可能性が高くなります。特に40歳代から乳がん診断される可能性が高くなるため、40歳になったら自覚症状がなくても2年に1回は乳がん検診を受けることが推奨されています。マンモグラフィ検診は世界で行われていて、乳がんによる死亡を15～20%減らせるということがわかっています。しかし残念なことに、先進諸国での乳がん検診の受診率が60～80%台、同じアジアの韓国でも60%を超えている一方で、日本人女性の乳がん検診受診率は40%程度しかありません。お住いの自治体から検診のお知らせが届いたら、せっかくの機会を逃さず受診して頂ければと思います。

マンモグラフィ検診に加えて月1回程度の自己検診も大切です。あなたの乳房の変化は、あなた自身が一番よく分かるからです。自覚できる乳がんの症状として、乳房のしこり、乳頭からの異常分泌物(例:血性分泌物)、乳頭部のただれ、乳房のひきつれなどがあります。これらの症状が全て乳がんとは限りませんが、症状があれば自己判断で終わらずに、専門医に相談して必要な検査を受けることが大切です。

近年はメディアなどで話題になることが多く、乳がんがより身近で不安なものと感じている方が多いかもしれません。しかし、前述のように乳がんは早期に診断し適切な治療を行えば良好な経過が期待できます。また、近年では分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬などの新しい薬剤も承認され、進行して見つかった場合や、再発を認めた場合でも治療効果が期待できます。乳がんの治療は、乳がんのタイプや進行度によって一人ひとり異なります。当院では、個々の患者さんにとって最善の治療法が選択できるよう、主治医をはじめ様々なスタッフがチームとなって診療をおこなっています。心配なことがあればいつでもご相談ください。



## 眼内レンズ(Intraocular lens、IOL)の進化

白内障手術では一般的に、濁った水晶体を取り除いて代わりに眼内レンズ(IOL)を挿入します。私が眼科医になった90年代前半当時はPMMA(ポリメチルメタアクリレート)という素材のIOLが使用されていました。PMMAは固くて折り曲げることのできない素材であったため眼内に挿入するには最低でもIOLの直径分、白目と黒目の境目付近に約6mmの切開が必要でした。しかも初期のPMMA製IOLは光学部と支持部が3つの部品に分かれており、その接合部位が手術中に破損することもありました。その後、光学部と支持部が一体となったワンピースタイプのIOLが登場しましたが、それでもやはり破損することがありました。眼を6mmも切開すると縫合する必要があり、縫合する力加減によっては手術後に乱視が増えてしまうこともありました。

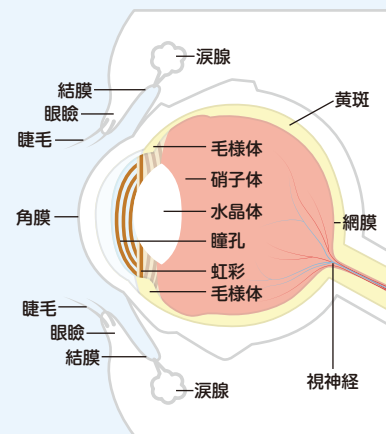
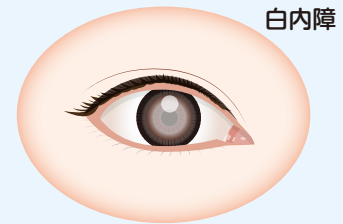
その後、1994年にアクリル製の柔らかい素材でできたIOLが登場します。アクリル製のIOLは柔らかいので折り畳むことができ、創口の切開幅が3.5mm程度と半分程度にまで小さくなりました。さらにその後、アクリル製IOLを挿入するための挿入器(インジェクター)が開発され切開幅は3mm以下となり、ほとんどの症例で切開部を縫合する必要がなくなりました。最近ではなんと1.8mmの切開幅でIOLを挿入する技術も開発されました。

アクリル製IOLの登場と同じ頃にシリコン製のやはり柔らかい素材でできたIOLも登場しました。当時はアクリル製と同じくらいたくさん使用されていましたがいくつかの問題点がわかり、最近ではほとんど使用されなくなりました。

レンズの素材だけではなくIOLの性能そのものも進化してきました。初期のIOLは無色透明で術後に視力が改善しても患者さんから「眩しい」「白色が青みがかって見える」などの不満の声が時々聞こえました。それらの欠点を解消するため最近のIOLは薄黄色に着色されており術後も自然な色合いで見えるよう改善されました。

90年代後半には乱視を改善させるIOLも登場し、手術後の矯正視力だけではなく裸眼視力の向上も期待できるようになってきました。

その後、2007年頃にはいよいよ多焦点IOLが登場します。それまでは単焦点IOLで手術後は遠くもしくは近くのみしかピントが合わず手術後には必ずメガネが必要でしたが、多焦点IOLを挿入することによって術後のメガネ装用が不要になるようになってきました。更に最近では多焦点IOLも2焦点から3焦点に改良されたものが登場し、更に快適な見え方となり、ある意味「老眼」も治すことができる時代になってきました。ただし、多焦点IOLは今の時点では保険適用がなく自由診療(先進医療)となるため、公立病院である小松市民病院で使用するにはまだ高いハードルがあります。でも今度の診療報酬改定で多焦点IOLが保険適用になるという噂も飛び交っており、近い将来当院でも使用できるようになるかもしれません。





メディカルレポート

## 緩和ケア科

緩和ケア科医長 北川 潤

## 早期からの緩和ケア

平成24年6月、がん対策推進基本計画が閣議決定され、その中では重点的に取り組むべき課題として「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」が宣言されました。それから7年が経ち、今や医療従事者の中では早期からの緩和ケアは当たり前ものになっています。しかし、一般の方にとっての「緩和ケア」とはどのようなものでしょうか？さすがに「緩和ケアとは何か分からない」といったことは無くなってきた様に感じます。しかし、「緩和ケア」の認識としては、「がんの最期にうける医療」「ホスピスの事」…このようなイメージが強いのではないかと思います。

確かに「がんの最期にうける医療」や「ホスピス」は緩和ケアの一部です。そもそも緩和ケアは、終末期の患者さんの苦しみを和らげるところから始まっているので、そのような印象をもたれる事も当然かと思えます。当院にも「緩和ケア病棟」があり、そこではがんに対する積極的な治療は行わず、苦痛を和らげながら療養生活を送っていただく事を目的としています。その病棟に入られる多くの方は、治療を終えたがん末期の方です。



緩和ケア病棟ラウンジ



多職種によるカンファレンス

では、がん治療中の方に苦痛は無いのでしょうか？残念ながら決してそのような事はありません。がんそのものによる痛み、抗がん剤の副作用による手足の痺れ、今後の不安、眠れない、仕事は続けられるのか、家族は大丈夫か、自分はがんで死んでしまうのか…。がん治療中の方を襲う苦痛は多々あるのが現状です。

緩和ケアはがんに対する苦痛を和らげ、生活の質を改善させる医療です。がんの時期に関わらず、いつでも必要な医療と考えています。がんに対する苦痛は大きく分けて「身体的な痛み」「精神的な痛み」「社会的な痛み」「スピリチュアルな痛み」の4つがあり、そ

れらの痛みが合わさって(全人的な痛みといいます)がんの方を苦しめます。その全人的な痛みに対して、少しでも苦痛を和らげる事が出来るように診療を行っていきます。一人の医師では出来る事が限られています。そのため、緩和ケア科として関わるのは医師だけではなく、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなど多職種にてサポートして参ります。

がん生存率は飛躍的に向上したと思いますが、いまだに辛い病気である事は間違いありません。がんで苦しんでいる方が、少しでもよい日常を送るお手伝いが出来ればと思っております。いつでも緩和ケア外来においでください。



緩和ケア外来

## 編・集・後・記

インフルエンザや新型コロナウイルスと世界を騒がせましたが、手洗い、うがい、そしてマスクをするといった習慣がしっかり身についたのではないのでしょうか。自分の健康は自分自身で守っていけるよう、できることから生活改善の取り組みをしていきましょう。(山本)



国民健康保険 小松市民病院



〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60番地  
TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155  
URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>  
E-mail [cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp](mailto:cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp)